

木の文化を支える森づくり活動「首里城古事の森」について～第2報～

九州森林管理局 沖縄森林管理署 西田 卓 矢
曲瀬川 淳一

1 背景

沖縄県では、マングローブや首里城等の木造建築、赤瓦屋根、琉球漆器などの豊かな自然を通じた木材の利用があったことから、多様で温もりのある木の文化が育まれています。しかし沖縄県の現状は、大戦時の戦火や乱伐の影響により、沖縄県の有用木材資源であるイヌマキやオキナワウラジロガシなどを木造建築用として使用することが難しくなっています。さらに、沖縄県内の一般住宅は、シロアリや台風に強いコンクリート住宅が増加し、木造建築物が非常に少なくなってきました。このような現状から沖縄県の木の文化が衰退しつつあります。

このため、平成 20 年度に首里城の復元・修復に使われているイヌマキ、オキナワウラジロガシなどの樹種を育て、国民参加による木の文化を継承することを目的に「首里城古事の森」が設定されました。今回は、平成 20 年から現在までの森づくり活動と森づくり活動を通して見えてきた課題について報告します。

2 取り組み概要

(1) 所在地

① 沖縄県国頭郡国頭村（安波国有林 35 に 2 林小班）

面積：2.49ha

方位：東

標高：200 ～ 220m

土壌：黄色土

林況：針広交林の林地

② 沖縄県国頭郡東村（平良国有林 1 林小班）

面積：0.68ha

方位：北西

標高：125 ～ 130m

土壌：赤土

林況：パイン畑跡地



図－1 古事の森所在地

(2) 活動内容

① 森林環境教育

沖縄署では、年に 2 回、「首里城古事の森」を活用し、地元の小学生に対して森林環境教育を実施しています。その中でも、地元の森林にある樹木の名前やその由来を知り、森林への関心を深めてもらうことを目的として樹木の観察や樹名板の設置を行っています。さらに紙芝居や講義を通して林業

の重要生、また 森林があることによってどのような効果が得られるのかなど、専門的な知識も織り交ぜながら森林・林業の重要性を認識してもらうための学習を行っています。



図－２ 樹木観察



図－３ 樹名板設置



図－４ 紙芝居

②下刈り・植樹

「首里城古事の森」の保育管理を行っていく上で、毎年、首里城古事の森育成協議会構成員やボランティア団体、地元小学生の協力を得て、下刈りや植樹、播種作業を実施しています。これらの活動は地元の方々が自分たちの手で施業することを通じて、自分たちで森を作っていく実感をもってもらい、地元の森林及び林業への関心づくりのきっかけとしています。



図－５ 下刈り



図－６ 植樹

③森林クイズ・丸太切り体験

森林やダム河川等の重要性を国民に知ってもらうことを目的に林野庁や国土交通省が主催する「森と湖に親しむ旬間」という期間があり、その期間の中で沖縄県では、各地でダムまつりというイベントが実施されています。沖縄署でもダムまつりの中で森林・林業のPRのため、森林クイズや丸太切りなどのイベントを実施しています。

森林クイズでは、森林の持つ機能や保育管理について、参加者がパネルを見ながら答えを探す仕組みにしており、子供でも楽しく、分かりやすい問題を出題しています。またこのパネルでは、「首里城古事の森」の取り組みについても紹介し、県民の皆さんに伝わるような普及活動を行っています。丸太切り体験では、実際に自分の手で丸太を切る難しさ等を体感してもらい、林業への関心を深める機会を提供しています。体験後は自分で切った丸太を持ち帰ってもらい、年輪を数えたり、木のおいを楽しんだりすることができることを伝えています。



図-7 森林クイズ



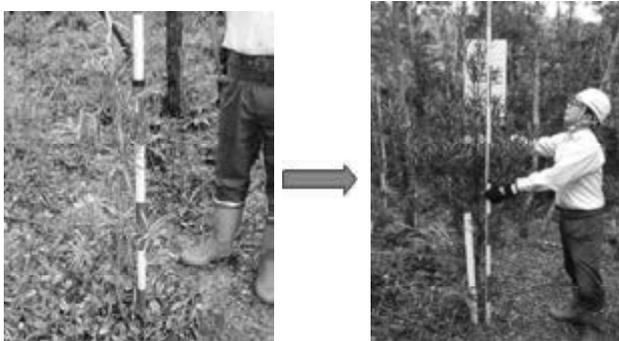
図-8 丸太切り体験

④成長量調査

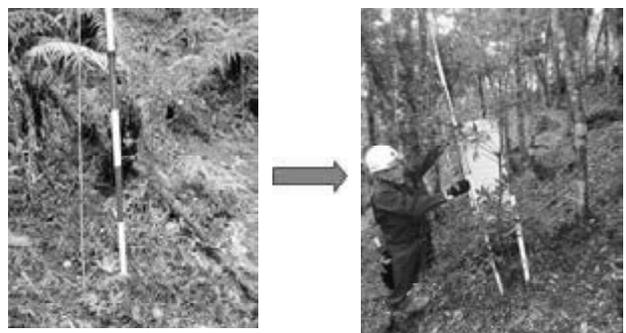
森林環境教育のような取り組みの他に、毎年、植樹したイヌマキ、オキナワウラジロガシなどについて成長量を計測しています。

国頭村安波国有林 35 林班では、平成 21 年度にイヌマキ樹高 1m、オキナワウラジロガシ樹高 1m であったのが、平成 28 年度にはイヌマキ樹高 2m、オキナワウラジロガシ樹高 2m となっていました。同じく東村平良国有林では、平成 25 年度にイヌマキ樹高 59cm、イジュ樹高 85cm であったのが、平成 28 年度ではイヌマキ樹高 87cm、イジュ樹高 1m27cm となっていました。

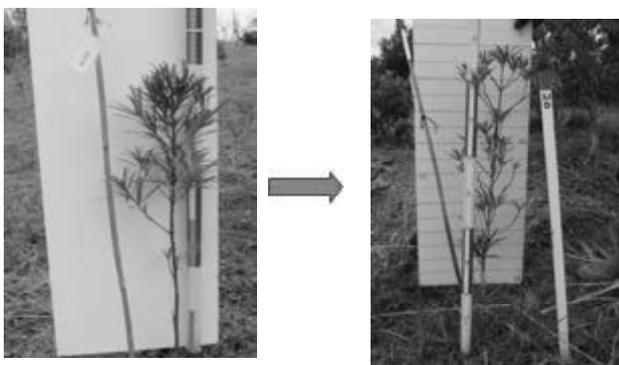
これらのデータを長期間収集することによって、将来、沖縄県の森林・林業のビジョンづくりのモデル林になることを考えています。



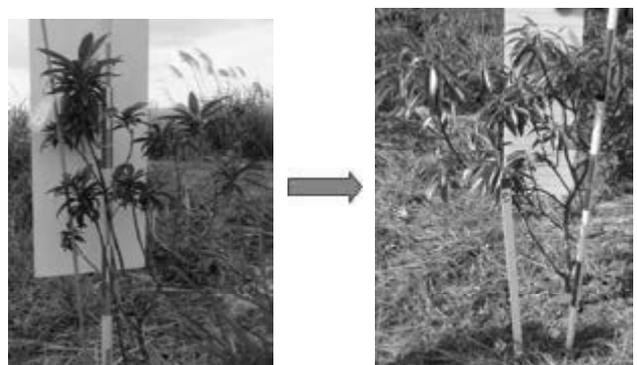
35 林班 イヌマキ樹高



35 林班 オキナワウラジロガシ樹高



1 林班 イヌマキ樹高



1 林班 イジュ樹高

⑤害虫調査

イヌマキ林分などの長伐期施業において、沖縄県で連年発生するキオビエダシヤクの被害対策が重要な課題となっています。「首里城古事の森」では、希少野生動植物の宝庫であることから、自然環境の保全に配慮した物理的手法である捕殺により、被害の蔓延防止に努めています。



図－9 キオビエダシヤク



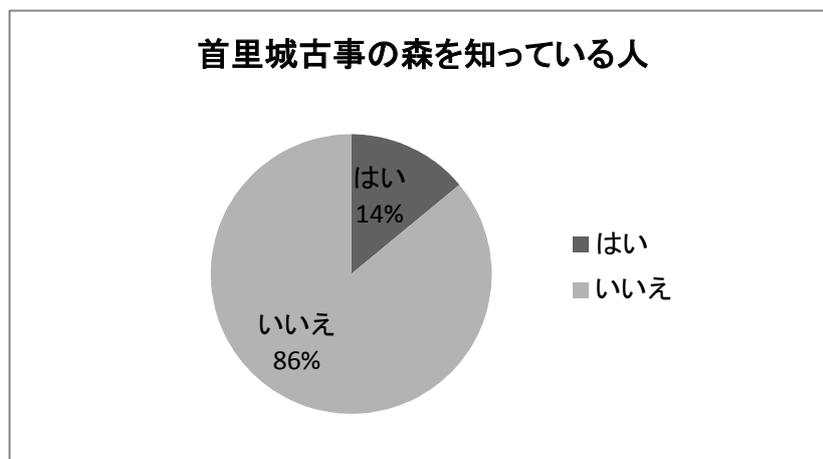
図－10 食害状況

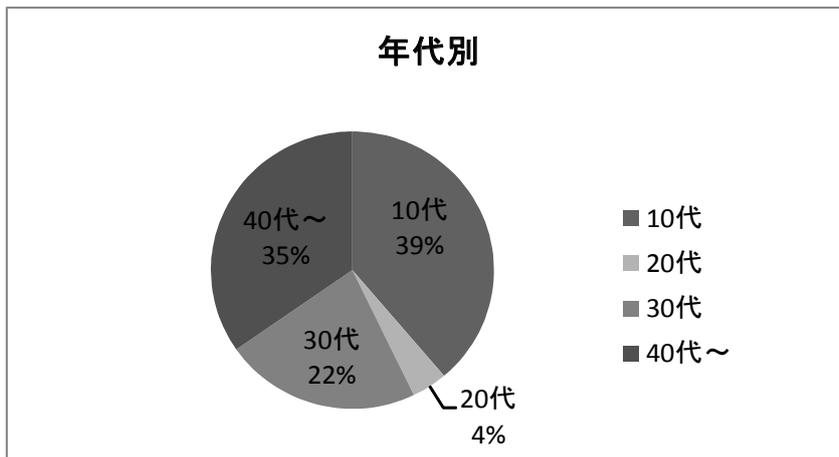
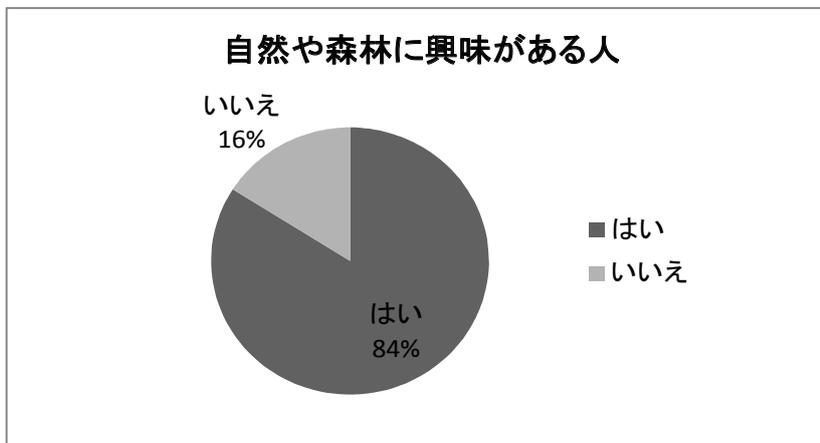
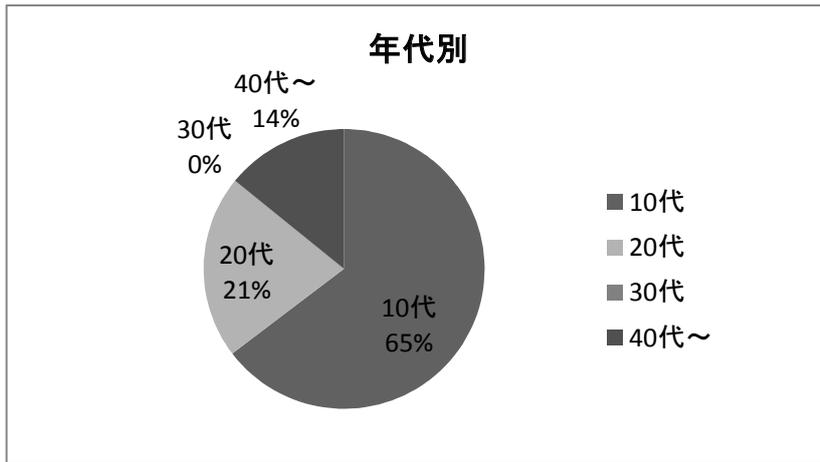
3 アンケート調査

平成 29 年 9 月に行われた安波ダムまつり（国頭村）において「首里城古事の森」についての周知度を調べるため 100 名にアンケート調査を実施しました。アンケートにおいて「首里城古事の森活動を知っているか」「自然や森林に興味はあるか」という質問を行いました。

その結果、首里城古事の森活動を知っている人は 14 %、知らない人は 86 % という結果になりました。その中でも年代別に見てみると 10 代で 65 %、20 代で 21 %、30 代で 0 %、40 代以上で 14 %となり、10 代での周知度が最も高いことが分かりました。この結果は首里城古事の森での森林環境教育の成果だと考えられます。しかし、全体で見ると知らない人は 86 %と認知度が非常に低く活動を行っていることをほとんど知らないといった現状が明らかとなり、地域住民への普及啓発が十分でないことが判明しました。この結果から今後は、さらなる PR 活動の強化を行っていくことが重要であると考えられます。

次に自然や森林に興味があるかという質問に対しては、興味があると回答した人が 84 %ととても高い水準にあり、年代別を見ても、どの年代も関心が高いことが判明しました。この結果からしっかりとした対応を行えば、「首里城古事の森」とそれに関する活動についても関心を持ってもらえるのではないかと考えられます。





4 まとめ

今回、アンケート調査の結果から首里城古事の森の地域住民への普及啓発が十分でないことが明らかとなったため、今後は現在実施している下刈りなどの保育管理、森林環境教育などをこれからも継続していくと共に、さらなるPR活動の強化を行い、地域住民に寄り添った活動を実施していきたいと考えています。